

日中対照言語学会員各位

日中対照言語学会員各位

日中対照言語学会 10 月例会を下記の通り開催いたします。どなたでも自由にご参加いただけますので、お誘いあわせのうえ多数ご来場くださいますようお願い申し上げます。

(日中対照言語学会事務局)

日中対照言語学会 2017 年 10 月例会

日 時:2017 年 10 月 21 日(土)17:00~19:00

場 所:大東文化会館 K404

ひと:小路口ゆみ(大東文化大学院)

テーマ:“把”構文の文構造の分類について

要旨:“把”構文の文構造は「名詞₁+“把”+名詞₂+動詞+その他」(「略記 N₁+“把”+N₂+V+その他」)であり、“把”構文を成立させる条件の一つは動詞の前後部分「その他」である。「その他」の部分が違ってくると、その文が表す文法的な意味も異なる。本発表において、“把”構文の文構造を分類する。この分類を通じて、“把”構文の語義を明らかにしたい。

“把”構文の分類に関して様々な学説が見られる。本発表では朱德熙(1995:250~255)、范晓(2001:309~319)、崔昱军(2012:176~180)、叶向阳(2004:25~39)などを参考しながら、動詞を中心として、《骆驼祥子》の中の実例を用いて分析を行う。以下の[表 1]のように 3 種類に分類した。

[表 1] “把”構文の文構造:

- I. 文構造:「N₁+“把”+N₂+V」(光杆动词式)
- II. 文構造:「N₁+“把”+N₂+状況語+V」(状心式)
- III. 文構造:「N₁+“把”+N₂+V+その他」

これらの他に、崔昱军(2012 : 176~180)が分類した三つの構造があり、それはたとえば「“看” + “把” + N₂ + V₁ + その他 (看把式)」と「N₁ + “把” + “个” + N₂ + V₁ + その他 (把个式)」と「“把” + N₂ + V + その他 (把 NPVP ! 式)」であり、筆者はこれらをまとめて特殊な“把”構文と呼んでいる。

“把”構文の文構造は「名詞₁ + “把” + 名詞₂ + 動詞 + その他」(「略記 N₁ + “把” + N₂ + V + その他」)であり、崔希亮(1995:12-20)は、語義から分類すると、“把”構文は二種類に分けられ、それは結果類と情態類である。結果類は“把”構文は二つの P₁ と P₂ の間に因果関係を持つという分析ができるが、情態類の“把”構文はそのような分析ができない。“把”構文を分類するにより、“把”構文の種類は結果類の“把”構文であるか、情態類の“把”構文であるか分かるので、よりよく“把”構文の語義を理解することができる。

交通

東武東上線東武練馬駅徒歩 3 分